

Bodian 染色における新規プロテイン銀 の使用経験

○高橋大樹、小野寺清隆、鈴木学、曾川紀子、
中千裕、岩井優、四宮義貴、大木昌二
(千葉大学医学部附属病院 病理部)

【はじめに】Bodian 染色は、病理診断において神経組織標本の観察に用いられる重要な染色法の一つである。神経細胞の細胞質、軸索突起、樹状突起内の神経線維の好銀性を利用して、プロテイン銀による鍍銀を行い黒色～黒褐色調に染色される。このプロテイン銀は、従来より用いられた Merck 社製のものが販売中止となったが、入手可能な海外製品では満足のいく染色結果が得られないという報告があり、我々も実験により確認した。このことより、Bodian 染色に適するプロテイン銀の製造・販売が待たれていたが、昨年末に和光純薬より新たに同試薬の販売が開始されたので、その染色性について検証を行ったので報告する。

【方法】10%ホルマリン固定、パラフィン包埋した $8\mu\text{m}$ の大脳・小脳の組織標本切片を用い、成書に従い Bodian 染色を行った。プロテイン銀の濃度は従来法に基づき、1%濃度にし、媒染剤には銅顆粒を使用した。染色性の確認は Merck 社製の結果をもとに比較した。

【結果】和光純薬製プロテイン銀を用いた Bodian 染色標本は、軸索や神経線維が黒色～黒褐色調に染色され、Merck 社製品を用いたものと遜色無い染色結果を得ることができた。

【結語】今回、プロテイン銀が国内メーカーより販売されたことで、各施設での Merck 社製品の在庫が無くなり次第、Bodian 染色が実施できなくなるという事態は回避でき、検討により安定した染色結果が得られたことから、今後も神経組織標本の病理診断において Bodian 染色が汎用されていくものと考えられた。

(連絡先 043-222-7171/内線 6401)